



# 中部人懇だより

令和5年度 第3号  
令和5年9月発行  
中部地区人権教育懇談会



「中部人懇」とは「中部地区人権教育懇談会」を略した呼び方です。被差別部落の完全解放をめざし、中部地区同和教育の推進を図ることを目的に、1971年(昭和46年)に発足しました。半世紀以上の歴史ある会です。

「中部人懇」って  
こんな会です!



9月19日(火)に、幼児教育の先生方を対象(参加者58名)として、第3回中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を報告します。

## 講義

「自己肯定感を育む保育」  
～こどもの権利を擁護する視点を踏まえて～

講師 武庫川女子大学  
教授 倉石 哲也 氏



はじめに、国全体の保育をめぐる動向として、こどもたちを取り巻く状況から『柔軟に対応する力が保育者(大人)に求められている』と話がありました。そして、教育・保育に携わる立場に求められる視点では、「幼児期は、大人の手を借りながら、幼児なりに解決したり、危機を乗り越えたりする経験を重ねることにより、自立的な生活態度が培われる」ので、「こどもの今にとって一番は何かを考える習慣をもつこと」「こどもたちができるようになるためには、まず依存する(頼る)こと」が大切であるとお話されました。こどもの発達を保障するためには、「できないときこそ、身近な大人の支えが必要」であり、幼児期は、「本人が嫌なことは、頑張り切れる発達段階になく、できないと感じたらしめない」ということや「負の感情を子どもが説明することは、こどもにとっては困難なことで、ストレスになるということを知っておいてほしい」とお話されました。しかし、生活の中では、やらなくてよいことばかりではないので、困ったときには助けてもらえるという信頼関係を築きながら、興味・関心が続くよう支援していく必要があることもまた大切であり、保護者の方への発信も専門性を生かして行っていく必要性を感じた講義でした。

また、昨今話題になっている不適切保育のお話もありました。この中で「自分は問題ない、そんなことはしないと捉えている行動が不適切な行動に該当するケースが多い」とありました。常に内省をし、していること、すべきことの専門性の蓄積をしながらアップデートしていくことが大切だと感じました。そのためには、職場で対話をしやすい雰囲気づくりをし、安心できる環境を持つことの大切さにも気付いた講義でした。

## 情報交換より



### ◆講義を聞いて、今後取組みたいこと

- ・職場のみんなで話し合える場を作っていきたい。
- ・園が多機能になると聞いたので、不適切保育のことだけでなく、いろいろな分野を学んでいきたい。
- ・日々の自分自身を振り返りたい。
- ・職員同士でも、失敗をしても大丈夫という雰囲気を作りたい。
- ・こどもの「できない」を保障し、できるまでの過程を楽しく工夫していきたい。

## 参加者の振り返り(一部)

- こどもに「できた」という経験をしてほしくて励ますことが多いが、できないことなどのマイナスな感情もしっかり受け入れて代弁していきたい。
- 保育者のできたという気持ちを優先するのではなく、こどもたちのできたという達成感や充実感を優先させていきたい。
- できないことや失敗したことが許されることで、こどもの自尊心を育て挑戦する気持ちを育てるという話が印象に残った。また、こどもは嫌なことを頑張っている発達段階ではないので、楽しく遊ぶことの必要性を改めて感じた。
- こどものできないを認める保育という言葉を聞いて、自分はそのまでこどものありのままを受け止めることができていたか振り返ることができた。
- 自立するということは、自分の力でできるようになることだけでなく、できないことを人に頼れるようになることを学んだ。